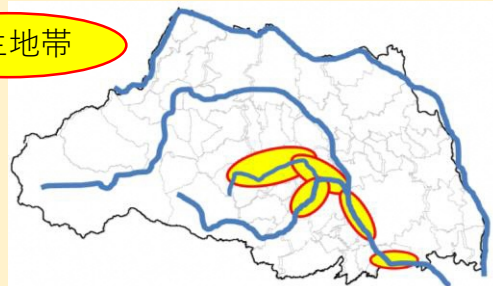


拡散させないで！

ナガエツルノゲイトウ

県内での発生状況

発生地帯



県内でナガエツルノゲイトウの発生が確認されています。

水田内や畦畔に定着すると駆除が困難です。
また、茎の断片からも発根して定着するため、発生場所で草刈りを行うと拡散します。
早期発見に努め、適切な防除を実施しましょう。

ナガエツルノゲイトウを発見した場合は、裏面の問合せ先に御連絡ください。

ナガエツルノゲイトウについて

- ・南米原産のヒユ科の多年草
- ・水草で水に浮き、河川等から水路、水田などに侵入
- ・茎の節から発根する。茎がちぎれやすく、断片が増殖源となる
- ・乾燥に強く、畑地などにも侵入する
- ・特定外来生物で、生きた個体の運搬等は原則禁止



ナガエツルノゲイトウの見分け方

【葉】節から1対の葉がつく、葉の先がややとがる

【茎】茎は空洞（ストロー状）、節に短い毛が生える、茎の表面はなめらか

【花】白く、小さい花が球状に咲く、花柄は葉のわきから伸び、長さは1～4 cm



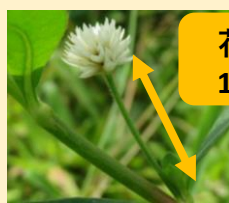
葉の形状＊1



茎の断面＊1



花の様子



花柄は
1～4cm



直根は50cm
以上伸びる

地下部の断面＊1

間違えやすい植物

ツルノゲイトウ＊1



- ・球状花は葉の脇に着生し、柄が無い
- ・花のない時期は見分けが困難

アメリカ

タカサブロウ＊2



- ・葉の鋸歯（緑のギザギザ）は明瞭
- ・花は球状でなく平たい

タカサブロウ＊2



- ・葉の鋸歯（緑のギザギザ）は明瞭
- ・花は球状でなく平たい

スベリヒユ＊2



- ・葉の先は丸い
- ・葉は互生（交互につく）
- ・花は黄色

シロツメクサ



- ・葉は3小葉
- ・葉に白い紋
- ・球状花の直径は2cm

ナガエツルノゲイトウ発生時の防除方法



- 断片から拡散する恐れがあるため、刈払機の使用は避けましょう。
- 使用基準に従って除草剤を使用します。
- 抜き取ったら厚手のゴミ袋やポリ袋等で密閉し、散逸させない場所で枯らすか、焼却処分します※。
- 水田内への侵入防止のため、給水口に4mm目合のネットを取り付けます。

※ 特定外来生物に指定されているため、栽培・運搬等は禁じられていますが、小規模な防除の場合、防除目的の運搬は事前に防除の内容等を公表すれば可能（農業を営むに当たって行う防除の場合の公表は不要）。

早期・早植栽培における防除体系の例

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
水稻の生育			田植	中干し	出穂期	収穫期						
ナガエツルノゲイトウの生育		萌芽・出芽	開花期					生育停止	地上部枯死	秋耕直後から土中萌芽開始（～3月）		

（化学的防除） 本田防除	防除時期	初中期	中後期	収穫後防除
	薬剤例	・ピラクロニル含有剤	・フロルピラウキシフェンベンジル含有剤	・グリホサート含有剤
	目的	・水稻用除草剤による化学的防除	・畦畔からの侵入抑制	・地下茎の肥大抑制 ・地下茎へ除草成分を送り込む ・稲刈後なるべく再生させる
	注意点	・深水処理	・収穫前日数	・初霜の1～2週間前までに防除

（耕種的防除） 本田防除	防除時期	防除時期①	防除時期②	防除時期③
	対策例	・低速高回転で耕うん ・農機付着土壌の除去	・4mm目合ネットで捕集 ・農機付着土壌の除去	・荒起こし ・農機付着土壌の除去
	目的	・再生力低下	・侵入、持出対策	・低温乾燥で地下茎を枯死 ・土壌の表面積を大きくする ・農機（土壌）で拡散
	注意点	・農機（土壌）で拡散	・用排水で拡散 ・農機（土壌）で拡散	

畦畔防除	防除時期	防除時期①	防除時期②	防除時期③
	薬剤例	・カソロン粒剤4.5	・グリホサート含有剤以外	・グリホサート含有剤
	目的	・土壌処理による長期残効	・地下部の生育量抑制 ・再生株の養分を消耗させる	・地下茎の肥大抑制 ・地下茎へ除草成分を送り込む
	注意点	・雑草発生前～発生始期	・抵抗性雑草発現抑制	・降霜による枯死前に防除

（令和6年6月1日現在の登録情報）

使用可能な薬剤の例

- ・最新の登録情報は右から確認ください 農業登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>
- ・農薬はラベルに記載の適用作物、使用時期、使用方法を十分確認の上、最終有効年月までに使用してください。

場所	時期	本草に有効な成分（一部を記載）	左の成分を含む薬剤名	希釈倍数・使用量	使用回数
本田	初中期一発剤	ピラクロニル ※2	バッチリLX1キロ粒剤	1kg/10a	1回
		ピラクロニル ※2	アツパレZ400FG	400g/10a	1回
	中期剤	フロルピラウキシフェンベンジル ※2	ウィードコア1キロ粒剤	1kg/10a	2回以内
	後期剤	フロルピラウキシフェンベンジル ※2	ロイヤント乳剤	200mL/10a	2回以内
	収穫後（9～10月）	グリホサートカリウム塩 ※2	ラウンドアップマックスロード※1	500～1000mL/10a	1回
畦畔	3～4月	DBN	カソロン粒剤4.5	6～12kg/10a	1回
	田植以降	フロルピラウキシフェンベンジル ※2	ロイヤント乳剤	200mL/10a	2回以内
		グルホシネートPナトリウム塩	ザクサ液剤	500～1000mL/10a	2回以内
		グリホサートカリウム塩 ※2	ラウンドアップマックスロード※1	200～1000mL/10a	3回以内

※1 畦畔のラウンドアップマックスロードは3回のうち、水稻生育中は1回とし、9～10月の本田の収穫後防除に1回残しておく。

※2 成分が同じ薬剤は使用回数に注意する。

● 注意 ● 河川敷や水路など水系に流出する恐れがある場所では、薬剤は使用できません！

【お問合せ先】

発生、防除については、下記または最寄りの農林振興センターに御連絡ください。

○埼玉県農産物安全課 048-830-4053 ○埼玉県病害虫防除所 048-539-0661